

彙報

一、今年度刊行した出版物

- 1 東西学術研究所紀要 第二十六輯
(平成五年三月三十一日刊)
- 2 東西学術研究所々報 第五十五号
(平成四年九月三十日刊)
- 3 東西学術研究所々報 第五十六号
(平成五年三月三十一日刊)
- 4 泊園第三十一号 (平成四年九月二十日刊)

[内容題目]

〈中国研究あれこれ〉

開講のあいさつ

中国古代の人相術

近代中国における時間の表わしかた

中国古典詩の特色

大庭 脩
坂出 祥伸
尾崎 實
伊藤 正文

二、シンポジウム

漢簡研究国際シンポジウム⁹²

平成四年十二月十二日(土)〜十四日(月)

百周年記念会館

(1) 十二日(土)

第一セッション 漢簡の総合的研究

「中国における漢簡発掘の現状」

徐 萃 芳氏(中国社会科学院考古研究所所长)

通訳 西川 和男氏(文学部助教)

第二セッション 居延漢簡の研究

「居延新簡の歴史研究に対する貢献」

初世 賓氏(甘肅省博物館館長)

通訳 曹 偉 琴氏(本学講師)

「エチナ川流域漢代遺蹟の現状」

岳 邦 湖氏(甘肅省文物考古研究所)

通訳 張 勤氏(本学講師)

「中央研究院歴史語言研究所所蔵居延漢簡整理工作簡報」

邢 義 田氏(台湾・中央研究院歴史語言研究所)

通訳 尾崎 實氏(文学部教授)

(2) 十三日(日)
第三セッション 敦煌漢簡の研究

「敦煌馬圈灣出土漢簡の特色」

吳 初 驥氏(甘肅省文物考古研究所)

通訳 吾妻 重二氏(文学部助教)

「漢簡中の符伝と過所」

何 双 全氏(甘肅省文物考古研究所)

通訳 井上 泰山氏(文学部助教)

「關於敦煌漢簡西域史料の幾個問題」

李 永 良氏(甘肅省文物考古研究所)

通訳 内田 慶市氏(文学部教授)

第四セッション その他の漢簡の研究

「湖北江陵出土漢簡概説」

彭 浩氏(荊州博物館館長)

通訳 鳥井 克之氏(文学部教授)

「湖北江陵張家山出土漢律竹簡―特に27号墓出土簡を中心に―」

李 学 勤氏(中国社会科学院歴史研究所長)

通訳 曹偉 琴氏(本学講師)

(3)十四日(月)

学術討論会(非公開)

三、講演会・研究例会

1 特別講演会

平成四年四月十五日(水) 十四時四十分?

東西学術研究所会議室

「日本芸術の中国への流入」

講師 王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

2 特別講演会

平成四年六月十七日(水) 十六時十分?

東西学術研究所会議室

「中国における日本研究」

講師 蘇 徳 昌氏(復旦大学教授)

3 特別講演会

平成四年十月二十日(水) 十四時四十分?

第一学舎4号館4階 地理学実習室

「Development in Hungarian Milling Technology」

(ハンガリーにおける製粉技術の発達)」

講師 パーリッシュ・ジェルジ氏(国立ハンガリー農業博物館

研究部部长)

4 特別講演会

平成四年十一月十六日(月) 十六時十分?

総合図書館3階 図書館ホール

「中国現代の文化的危機—ひとつの思想的視察」

講師 余 英 時氏(プリンストン大学教授)

通訳 吾妻 重二氏(文学部助教授)

5 特別講演会

平成四年十一月二十日(金) 十四時四十分?

法・文研究室2号棟4階 史学地理学科合同研究室

「清末日本版古籍来伝中国的概況」

講師 王 宝 平氏(中国杭州大学日本文化研究センター副所長)

6 特別講演会

平成五年一月二十二日(金) 十七時三十分?

東西学術研究所会議室

「敦煌懸泉置出土漢簡の特色」

講師 何 双 全氏(中国甘肅省文物考古研究所副研究員)

通訳 来村 多加史氏(本学非常勤講師)

7 特別講演会

平成五年二月十八日(木) 十四時四十分?

東西学術研究所会議室

「北条政子と宗教」

講師 マーティン・コルカット氏(プリンストン大学東洋学部

日本史教授)

8 研究例会

平成四年四月十五日(水) 十四時四十分?

「臨沂銀雀山漢簡と兵書」

研究員 大庭 脩

9 研究例会

平成四年五月二十日(水) 十六時?

「在外研究報告—中国の場合—」

研究員 宮下 三郎

10 研究例会

平成四年六月十七日(水) 十四時四十分?

「アメリカの東洋学—プリンストンの場合—」

11 研究例会

研究員 河田 悌一

平成四年七月二十二日(水) 十三時～

(1) 「漢訳聖書のことなど」

研究員 内田 慶市

(2) 「『紅樓夢』の中の舶来品―時計の場合―」

研究員 尾崎 實

12 研究例会

平成四年十月七日(水) 十四時四十分～

(1) 「近世日本における『西湖』受容」

研究員 藪田 香融

(2) 「成尋をめぐる中国の人々」

研究員 藤善 真澄

13 第三十二回泊園記念講座(東西学術研究所・泊園記念会・大阪府立文化情報センター共催)

平成四年十一月十八日・十九日二十日 毎十八時三十分～二十時

於 大阪府立文化情報センターホール(住友中之島ビル五階)
〈中国研究あれこれ その二〉

(1) 十八日(水)

「大陸に消えた巡礼僧」

講師 関西大学 藤善 真澄

(2) 十九日(木)

「中国社会と演劇」

講師 関西大学 井上 泰山

(3) 二十日(金)

「老舎―北京の作家―」

講師 関西大学 日下 恒夫

四、研究者往来

。四月二十四日(金)

王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

杭州大学日本文化研究センターと関西大学東西学術研究所の間で研究交流協定を締結するため来所。

。六月十一日(木)

王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

協定に基づく研究推進について大庭所長と懇談。

。六月二十五日(木)

胡 一 雅氏(中国社会科学院歴史研究所研究員)

周 年 昌氏(中国社会科学院歴史研究所副研究員)

孫 新氏(中国社会科学院歴史研究所副研究員)

王 欣氏(中国社会科学院外事局助理研究員)

表敬訪問され、大庭所長と懇談。

。七月一日(水)

王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

共同研究に必要な図書を寄贈するにあたり、図書の選択のため来所。

。七月二十六日(日)～八月一日(土)

大庭 脩所長

中・日国交正常化二〇周年記念「中・日関係史上の友好使者」シンポジウムに出席のため北京へ。

。七月二十九日(水)

王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

寄贈図書四一二点が決定し、その受取ならびに発送手続きのため来所。

。八月二十三日(日)～九月八日(火)

大庭 脩所長

スウェーデン中央アジア探検関係資料調査のため、スウェーデン民

族学研究所へ。

。九月十六日(水)

菅井 但氏(船の科学館元研究員)

大庭所長と懇談のため来所。入手困難な中国書『水運技術詞典』を受贈。

。十月四日(日)～十日(土)

大庭 脩所長

交流教授として講義のため、中国北京大学歴史学系へ。

。バラージュ・ジェルジ氏(国立ハンガリー農業博物館研究部部长)関西大学外国人招へい研究者規程により招へいした研究員)

期間||平成四年十月十三日(金)～十一月二十七日(金)

。趙 建 民氏(中国復旦大学歴史系副教授)関西大学交換研究者規程による研究者)

期間||平成四年十一月十一日(水)～平成五年五月中旬

。十一月十六日(月)

余 英 時氏(プリンストン大学教授)関西大学外国人招へい研究者規程により招へいした講演者)

特別講演会講師として来所。

。十一月二十日(金)

王 宝 平氏(中国杭州大学日本文化研究センター副所長)

特別講演会講師として来所。

。十二月五日(土)～十一月十一日(木)

何 双 全氏(中国甘肅省文物考古研究所副研究員)

漢簡研究国際シンポジウム'92に招聘した研究者の一人であり、会期終了後も引き続き漢簡の共同研究のため、二月十一日まで滞在。

(滞在費は文部省科学研究費補助金より支弁)

。十二月十日(木)～十七日(木)

マイケル・ローウェー氏(ケンブリッジ大学東洋学部講師)

漢簡研究国際シンポジウム'92に招聘した研究者の一人。

。十二月十一日(金)～十七日(木)

李 学 勤氏(中国社会科学院歴史研究所所長)

謝 桂 華氏(中国社会科学院歴史研究所副研究員)

徐 萃 芳氏(中国社会科学院考古研究所所長)

岳 邦 湖氏(中国甘肅省文物考古研究所副研究員)

吳 初 驥氏(中国甘肅省文物考古研究所副研究員)

李 永 良氏(中国甘肅省文物考古研究所助理研究員)

李 均 明氏(中国文物研究所副研究員)

初 世 賓氏(中国甘肅省博物館館長)

彭 浩氏(中国荊州博物館館長)

管 東 貴氏(台湾中央研究院歴史語言研究所所長)

邢 義 田氏(台湾中央研究院歴史語言研究所研究員)

漢簡研究国際シンポジウム'92に招聘した中国研究者(台湾より2名を含む)。

。十二月十六日(水)

王 勇氏(中国杭州大学日本文化研究センター所長)

国際日本文化研究センター招聘研究者としての任期を満了し、帰国挨拶のため来所。

。二月十三日(土)～三月十三日(土)

吳 宗 国氏(北京大学歴史学系教授)

北京大学歴史学系との学術交流に関する協定に基づく交換研究者として来所。

(滞在費は文部省科学研究費補助金より支弁)

。二月十八日(木)

マーティン・コルカット氏(プリンストン大学東洋学部日本史教授)特別講演会講師として来所。